

# 保育



昨年の4月から地域おこし協力隊として占冠保育所で勤務している尾江です。占冠村に来て約1年が経ちました。春夏秋冬、どんな季節も素晴らしい占冠。野ウサギや野鳥を間近で見られるなど、豊かな自然や移りゆく季節を肌で感じながら、毎日楽しく元気に過ごしています。

豊かな自然、かわいい子どもたちに  
囲まれて、毎日が充実しています



保育所では、子どもたちと一緒にさまざまな経験をさせてもらっています。日々成長していく子どもたちのたくましさやかわいらしい姿に癒されている毎日です。

昨年11月に保育所で「なおりみカフェ」が開催され、占冠での生活や保育のことなどについて鈴木直道知事と直接お話しする機会がありました。また、12月には地域おこし協力隊のサポートセミナーに参加しました。隊員同士での情報交換や地域の活動などについていろいろと知ることができ、とても学びのある研修だったと感じています。これからも日々の学びを大切にして、占冠での保育に生かせるよう皆さんと協力しながら楽しく活動していきたいと思います。



おえ まさみ 隊員  
尾江 理美 所属：福祉子育て支援課  
子育て支援室



# 地域おこし協力隊活動報告

令和2年12月に地域おこし協力隊として着任した田中です。村の特産品であるメープルシロップ「トペニワッカ」の製造補助や販売促進などを主に担当し、樹液の採取や製造工程の見直し、また、ふるさと納税の返礼品としても取り扱っているため、寄付件数を増やすためのPR活動等にも力を入れてきました。そのかいもあって、今年度は前年度比1.5倍と過去2番目に多い生産量となり、ふるさと納税の寄付件数も前年度比4倍と過去最高となりました。来年度分に関する準備も、昨年12月から先行予約を開始していることもあり、寄付件数は今年度を上回るペースで推移しています。

シロップ事業を牽引してきた自治体の一つだと考えています。今後も参加自治体が増えてくるのが予想される中で、どのようにして他との差別化を図り展開していくかを模索していく必要があると感じています。加えて、メープルシロップが持つ文化的意義を高めていく必要性も感じています。多くの方に占冠村の豊富な天然資源や地域文化に触れていただくための入り口としてメープルシロップを活用し、この村のメープルシロップ事業が「特産品」としてだけでなく「地域おこし」の一つとなるよう尽力していきたいと思っています。

昨年はコロナ禍で中止となっていたツアー事業も試験的に再開しました。本年もツアー事業を含め、村内のさまざまな方がメープルシロップと関われるような機会を提供できるように活動していきたいと考えています。協力隊としての任期も残すところ1年と限られていますが、これからより楽しく願っています。

# 林業

極寒の森が生み出すやさしい甘さ  
占冠村のメープルシロップを全国へ



## ～トペニワッカの秘密～

占冠村のメープルシロップは採取したカエデ樹液の管理と丁寧な煮詰めが生み出すコクが特徴。決まった量の樹液を大きな鍋で時間をかけて煮詰めていくという伝統的な方法で製造しています。素材がシンプルだからこそ、どのように管理し、製造するかがシロップの出来に大きく関わってきます。



たなか けい 隊員  
田中 慧 所属：農林課林業振興室

毎日が驚きと発見の連続 —  
パワフルな子どもたちから  
笑顔と元気ももらっています！



昨年5月に東京から地域おこし協力隊として着任し、占冠保育所で働いている大岩です。都会を離れ、家から山が見える環境で暮らせることに喜びを感じながら過ごせたこの1年。四季の移り変わりを身近に感じ、以前より穏やかな気持ちで生活できています。夜に星を見られることが新鮮で、空を眺めながら帰宅することが晴れた日の楽しみになっています。

保育所では1月から外遊びができるようになりました。私自身、ふかふかの雪に触れる経験が少なかったのが、童心に帰って全力で雪遊びを楽しむ毎日です。また、日々の生活や行事を通して子どもたちのユニークな発想に驚かされたり、元気いっぱい笑顔にパワーをもらったりしています。少しずつ友だちを思いやる姿が見られたり、身の回りのことを丁寧に取組んだり、子どもたちの成長していく姿を保護者の方と一緒に見守ることができてうれしく思います。占冠の自然を生かした活動や異年齢ならではの遊びを取り入れながら、これからも職員の方と協力して楽しく保育を行っていきたいと思います。



おおいわ みき 隊員  
大岩 未希 所属：福祉子育て支援課  
子育て支援室